

歌川広重が描いた「金沢八景」と現在の風景〈場所はおおよその場所です〉

1 洲崎晴嵐

塩田を背景に、柳や竹が風に揺れて音を立てている様子



琵琶島を望む

2 瀬戸秋月

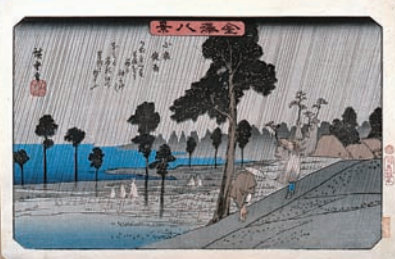
満月に照らされた野島と料亭と瀬戸橋が見える様子



琵琶島から見た様子

3 小泉夜雨

手子神社付近から夜の雨の一本道を見た様子



手子神社

4 乙艦帰帆

小柴の岬から乙艦海岸に向かって、帆を掲げて船が帰ってくる様子



海の公園

金沢八景



「能見堂跡」に立つ金沢八景根元地の碑

金沢の八つの勝景を当てはめたもので、元禄の頃に明の僧侶心越禅師が、能見堂(現在の能見台)からの金沢の眺望を中国の瀟湘八景になぞらえて命名したと伝えられています。同じ頃、歌人の京極高門が金沢八景の和歌を詠み、のちに歌川広重がその和歌を刻み描いた浮世絵により、「金沢八景」が広く知られるようになりました。



能見堂からの眺め



「福石」伝説

琵琶島神社参道入口にあります。源頼朝が瀬戸神社参拝のため平潟湾で禊をした時に衣服を掛けた石なので「服石」、征夷大將軍になったので、「福石」と呼ばれたと伝えられています。美女石(称名寺)・姥石・飛石(金龍院)と合わせ金沢四名石と呼ばれています。(姥石は現存せず)



姫小島水門(平成5年復元)

金沢地区の干拓事業を進めてきた永島家六代目段右衛門が金沢入江新田開発のため造ったものと言われています。水門の門扉は海側にのみ閉鎖することにより潮が満ちれば水門が閉じ、干潮の時には開いて入江の海水が流れ出るようになっていました。姫小島の名前は「照手姫と小栗判官」伝承によると、照手姫が、この島で松葉いぶしの難に遭ったということで、この土地の人が哀れみ「姫小島」と呼ぶようになったそうです。



5 称名晩鐘

夕暮れの称名寺から聞こえる鐘の音と漁船の上で夕べの祈りをする様子



称名寺・鐘楼

6 平潟落雁

野島を背景に、潮干狩りをする人達と、列になって飛び立った雁の群れ



平潟橋から野島山を望む

7 野島夕照

野島の漁師村に夕焼けが映えている様子



平潟橋から見た野島山と夕照橋

8 内川暮雪

雪の降る切通を過ぎ、内川が六浦の海に流れ込む所まで辿り着いた様子



平潟橋から内川橋方面を望む